

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム るしだ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県 玉名市 横島町 横島3399-1
記入者名 (管理者)	安田 尚司
記入日	平成 21年 4月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5年目を迎え、初心を振り返ると共に現在の状況に応じた基本理念の見直しに取り組んでいる。	○	利用者の状況に合わせ、職員一人一人の意見を生かし、新しい理念を作成したいと思う。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	更衣室、台所、ホール、事務室に基本理念を掲示している。また、契約時に利用者、家族に説明し書面で渡している。	○	理念の中で、できている部分とできていない部分をはっきりしてきたので、理念の見直しを検討する時期だと思う。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は契約時や運営推進会議で伝えている。また、パンフレットや季刊紙に基本理念を載せている。家族の中には利用者全員を自宅の畑に招待した方もいて、グループホームならではの支援の仕方をそれぞれ理解してもらっていると思う。	○	地域住民との交流を意識して作った理念ではないので、どう地域と連携をとるか学ぶ必要がある。
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内の美容室、スーパーを利用している。母体施設が10年目になるので、近所との関係は良好で、徘徊者を知らせてくれることもある。法人の夏祭りには、近所から約500名の方が遊びに訪れる。当事業所も全員参加で地域の方と触れあう機会になっている。	○	近隣の方には、まずまず存在は知られるようになったと思う。ただ気軽に訪れるような方はいないので、運営推進会議等で地域住民の方と意見を交わして工夫していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム長が年2回の地域清掃に参加している。地域主催の文化祭へ作品出品、コンサート、祭り等への参加もしている。運営推進会議のおかげで、老人会等の役員が変わってもすぐ挨拶に行くことができるようになったし、会議でしか聞けないような地域で起きている情報が聞けるようになった。	○	事業所外での活動を充実させるためには職員数に余裕を持たせなければならないが、可能な限り努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の居宅支援事業所と、公民館に介護保険の講習に向くことも経験した。母体施設の方が大きく様々な職種の者がいるので、今後もそれぞれの事業所の長所を生かし連携を図りたい。	○	地域住民は認知症の知識が不足していると思うので、認知症支援の啓蒙活動ができるような方法を探りたい。
の				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質を確保する指標となるので、定期的な実施は職員の意識の向上につながると思う。昨年は改善点として、運営推進会議に地域包括支援センター職員を出席者リストに加えた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が利用者の集まるリビングで行っているの、ホームの雰囲気を感じてもらえるし、利用者がふらっと会議に飛び入りで参加することもある。そこで前回の会議後から今回までの活動報告等を行っている。	○	地域包括支援センターの方のようなサービスに詳しい方に積極的に意見を求めながら、地域住民の方に話を広げるような工夫が必要と思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	窓口が県から市に移って、行政への連絡は非常にやりやすくなった。集団指導のような説明会も県庁まで行かなくて済むし、参加人数も少ないので、個々の事業所を丁寧に扱ってもらえていると思う。	○	県庁の方と比べると知識不足は否めないなので、サービス向上のために連携するなら、事業所側がしっかり主導する能力が必要で、どうしていくか考えなければならない。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一度後見人のついた利用者が入居したことがあり、家族と後見人が良好な関係ではなかったのが非常に苦労したが、おかげで職員全員良い勉強になった。他にも外部研修や顧問弁護士を講師に招き、勉強会を行ったこともある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より意識、理念を徹底することと、暴力等の問題行動のある入居者には退居してもらおう措置も行った。	○	暴力や身体拘束をしないことは勿論、日頃の声かけ等にも虐待的なものはないか、定期的に勉強会を行うことを定着させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時、管理者の面接時、契約時と段階を踏んで十分納得してもらっている。契約書も過去の利用者との経験を参考にして、重要と思われる箇所は特に時間をかけて説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表をメンバーとして登録している。苦情まではなかなか出ないが、会議はアットホームな雰囲気での他の出席者と会話をすることはできているので、不満があれば遠慮なく言える環境は作っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「るしだ通信」という季刊紙や、年2回の家族会で丁寧に報告している。簡単なことがあれば面会時に、緊急時には電話で伝えるような措置もとっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見用紙を渡して、苦情等を出してもらい取り組みは、入念に行っている。また、定期的に家族会と運営推進会議を合同で行う取り組みを行っているので、そういう場で意見が出てくればイベントとしても充実すると思う。	○ 家族の支えを重視しているので、職員も家族とは良好な関係を築くことに努力している。そうして仲良くなることから、苦情を言いつらくなるのだと思う。家族だけで家族会を開催したらとも思うが、負担になるのでなかなか頼めない。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の理事も兼ねるホーム長が、平日は現場に常駐する。毎月の定例会議にも出席し、職員の意見を聞ける体制をとっている。管理者は現場の勤務に入っているため、より他職員と近い関係にあり、その都度意見が出れば、ホーム長に報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	小さな事業所なので、その時の状況に応じて時間帯を変えたり新しい時間帯を作ったりして、柔軟に対応してきた。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所間のローテーションがあるので、他が異動するのにグループホームだけ異動しないわけにはいかない。但し、最大限ホームに適した人材を選ぶように努力している。異動後も勤務体制をその都度工夫し、影響がでないように努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への参加は各個人に合わせたものを勧めている。現場で必要なものをホーム内の勉強会で取り上げている。</p>	<p>○</p> <p>受験資格のある者には介護福祉士の資格を取ってほしい、職員数に余裕が出たら、認知症介後実践者研修を未受講の職員に受けてほしい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の連絡会に積極的に参加するようにしている。連絡会を通じて勉強会、のど自慢大会等を企画し、他のホームとの繋がりも構築できた。一部の事業所とは相互訪問も行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>開設記念パーティーや忘年会を法人全体で盛大に行っている。当初は職員数の少なさから余裕がなかったが2年前からは職員旅行も行っていて、福利厚生の方にも力を入れている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>介護福祉士を取ることで職務手当が上がるし、欠勤なく真面目に勤務している者は精勤手当も賞与も支給している。職員のできる長所を伸ばし活かせるような取り組みを行い、苦手な所は皆で支え合うような声かけ、ミーティングを行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の訪問、面談を必ず事前に行うようにしている。入居間もない時には、特に関わりを多く持つようにしている。希望があれば、体験入居にも対応している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前よりなるべく多くの話を聞くよう努力している。不安や疑問に対しては、その都度対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	当ホームの対応方法を細かく情報提供し、対応の限界を伝 えている。必要に応じた他のサービスがあれば情報提供も行 い、一緒に検討していくよう心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	希望があれば、体験入居に対応している。家族の付き添い 等の支援協力も積極的に受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	以前、取り組まれていたことや地域の情報等利用者から教わ ることが、日常の中で多く見られる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	生活の様子をなるべく細めに情報提供し、作品や写真を見 て楽しんでいただく。連絡会で「認知症の人と家族の会」の 世話人の方を講師に招き、家族支援についての勉強会を行 った。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	以前は利用者の誕生日に誕生会をしていたが、今はその日 の前後でも家族の都合がつけば、家族が来てくれる日を優 先し誕生会を行うようにしている。家族会や旅行を行う中で、 会食や宴会等の楽しい企画を考え、家族の参加率を高めて いる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	利用者が望んだことには、積極的に取り組むよう心掛けている が、認知症の進行のためか、こちらの働きかけに対しても 消極的になった方が増えている。一部の利用者に対しては、 本人が納得できるまでの取り組みができていない。	○	積極的気持ちになれるように、はたらきかける努力と工夫が 必要である。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せず利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	作業の参加、入浴、食事等日頃の関係が崩れないよう配慮 し対応している。以前は男性の利用者が一名で孤立しやす かったが、現在は3名おられるので、男性同士仲間意識を もち孤立することはない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	骨折のため退居になり併設施設でリハビリし、一年後もどってきた利用者もおられる。他にも、重度化のため退居し併設施設に入所した利用者や家族が、気軽に事業所に立ち寄る場合もあり、オープンな事業所を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活状況に変化があれば、その都度本人や家族に状態の説明を行い、希望の確認を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴の情報を収集する。また、ホームでの生活の中で気になることがあれば、本人や家族に話しかけ、情報を収集する。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定例会やその都度の話し合いの場で、個人の情報も収集している。また、経過や変化は記録に残していく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現状での課題を見つけ、本人や家族の希望を取り入れながら行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要時には話し合いの場を持ち、本人、家族の希望を取り入れながら行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて現状を把握、情報の共有をし、サービス提供に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の診療所からの往診、併設施設の受け入れ、夏祭りや慰問等法人内で様々な連携をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	母体の施設で民生委員を行事等に招き、交流を深めていて、当ホームの情報も提供している。地域からは、毎年文化祭やサマーコンサートに招待されている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	歯科医院、理容院等ともスムーズに行き帰りができるよう連携をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	前回の外部評価にて、地域包括支援センターの職員を運営推進会議のメンバーに入れるようアドバイスを受け、昨年から会議へ出席してもらっている。会議では有識者のような立場にもなり、良い意見を出してもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医をどうするか聞かすが、ほとんどの方が、併設の診療所が便利なので、主治医を変える。通院も同一敷地内を歩いて行けることから安全で、緊急時には往診にも応じるので、入居者には非常に便利だと思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>数例を経験した中で、職員のストレスが相当なものであることが分かっている。新しい職員もいるので、家族も含めて介護をする方のケアも取り組まなければならないと思う。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁を発見したら、さり気なく居室や浴室に誘ったりと気を付けている。記録には他の利用者名は書かないようにしている。個人情報の取り扱いについては、契約時に同意書を取っている。	○ 運営推進会議ではある程度利用者の情報は提供するので、出席者に秘密保持の件について徹底する必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	会話の中から、本人の思い、希望等を聞き取れるよう努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話や行動、表情を見ながら、その時の想いを重視する形で入居者に接している。	○ 現場の職員より、今の人数では利用者の活動支援が困難という意見があったので、職員の増員を計画している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族や近所の理容室の協力を得て、散髪を行っている。個人の好む装いができるよう、家族の協力も得ている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の方で参加できる作業を行ってもらい、個人の好みや嗜好、その時の気分に合わせてられるよう、努力している。(季節の行事食、お祝いの食事、選択メニュー、外食等)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒は家族、本人と話し合った上で晩酌を取り入れている。お祝いやバーベキューのような特別時の食事でも行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要時にはチェック表を利用し、排泄のパターンを知る。また、行動や状況を見ながら支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、夕食後の入浴を希望する入居者がいないため、午後入浴を中心に行っている。浴槽が広いので、希望により複数で入浴することもできる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人に合わせた時間、場所での安眠、休息ができるよう努めている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴を調べたものを元に、料理の手伝い、お酒の提供等可能な限り利用者の満足感を引き出せるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力もあり、個人で管理している入居者もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や理髪店の利用等希望に添えるよう努めている。	○	利用者から「～に行きたい」という希望もあまり出ないので、外出の支援は職員が企画することが多い。利用者から上手に聞き出す工夫が足りないのかもしれない。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年、温泉旅行や芝居鑑賞等企画している。亡くなった入居者の葬儀に、仲の良かった利用者が「最後に手を合わせた」という希望があったので、式場に同行し支援した。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		○	毎年ホームから家族へ出している年賀状に、入居者が記入するスペースを作ってみようと思う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は仕事で来れない家族もいるので面会時間を制限しなかったり、面会時には職員が笑顔で挨拶したりお茶を出したりと、様々な面会者に訪問しやすい雰囲気を与えるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どうしても身体拘束が必要な利用者であれば、入居受入はしないようにしている。既存の利用者で、目が離せないような方は、ベッドを居室からリビングホールに移動させて見守る等工夫している。	○	人事異動で職員も多く変わっているので、定期的な研修参加、ミーティングで取り上げる等行う必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はついていない。玄関には鈴をつけることで、人の出入りが分かるようになっているので、徘徊する利用者を念頭に置きながら、他の業務に従事することができる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全体を見渡しやすい建物の造りになっており、職員は自分の持ち場でさりげなく利用者の様子を見守る。ナースコールも設置しているので、居室にいる時や入浴中でも何かあれば職員も呼べるようになっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を把握し、不自然にリスクのない環境にしないよう心掛けている。包丁を使った野菜の処理や裁縫等できることは可能な限り継続してもらおうよう努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと報告書を活用し、事例によって再発防止の検討会を行っている。正月の餅を喉に詰ませた時のことを想定し、同時期に応急手当の訓練を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練時に応急手当の訓練を、消防士の方を講師に迎え行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は定期的に行っている。火災が起きると、併設施設の事務所、ナースステーションの報知器からもブザーが鳴るようになっていて、他の職員が応援に駆けつけるようになっていいる。	○	地震や水害の対策はまだしていないので、マニュアルを作りたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時にグループホームがどういう事業所か説明し、自由な活動を支援するために転倒等のリスクがあることを、入院したときの外泊制限等と共に理解してもらった。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の検温、食事量チェック、体重測定により、早期発見に努める。異常のある場合は記録し、伝えていく。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の協力で利用者毎に手帳を作ってもらい、薬の情報についてしっかり管理している。新しく開始となった薬の場合、注意事項を書き出し、職員間で情報を共有する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や食べ物がスムーズに取れていない時には、嗜好品などを取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人にあった歯磨き、義歯洗浄、うがいの支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要時には居室へお茶を持ち帰ってもらう。その人にあった食事内容と量で提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにて対応している。流行が予想される時は、行政から通知が来るので、職員全員に注意を促す。インフルエンザに関しては利用者、職員共に予防接種を行うよう努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、フキンは毎日消毒を行う。生鮮食品は買い置きを沢山せず、早めに使い切る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板を切り株にしたり両側にツツジを植えたりして、なるべく温かい雰囲気が出るように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、高い天井で南側にはガラス窓が一面に貼ってあるので、日中は気持ちよい日差しが入り、快適である。ウッドデッキに布団を干したり、庭の花壇の花も見えて、庭の景色も居心地のよいものになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには複数の集合場所があり、ベンチも備えている。廊下や庭にもベンチを設置しているので、それぞれが好きな所で過ごすことができる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとしては最小限の設備を用意するだけで、契約時に利用者の馴染みのあるものを持ち込んでほしい旨を伝えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気設備の使用と、窓を開けての空気入れ換えを毎日心掛けています。ウイルス対策の効力もあるので、新たに空気清浄機を導入した。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢で足腰や弱っている方でも、安全に自由に動いてもらえるよう、通常の1ユニットの建物より広い造りにし、廊下の幅、トイレの空間、段差なしで庭園に行ける等あらゆる所を工夫してある。また、物干しも運営していくうちに背の低いものに変えたりと、改善できる点は前向きに行うようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	建物は認知症の方が利用することを想定し、可能な限りシンプルな造りにしてある。居室の入り口は同じデザインなので、利用者の理解力によって名札をはったりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広いウッドデッキを設けバーベキューで盛り上がったり、花壇や畑がある広い庭園は様々な活動ができる。法人の敷地も広いので、散歩できるし、敷地外に出ても自動車の交通量も少ない農道なので、安全に歩くことができる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在の利用者は平均年齢も90歳弱、介護度も3、4が大半を占めているため、外出の支援はある程度制限せざるを得ない。従って当事業所は、ホーム内での生活をいかに充実させるかに一番力を入れている。認知症は勿論、足腰が不自由、摂食が不自由、排泄、入浴等様々な行動が困難な方に対しても、家庭的な雰囲気、時間の流れの中で過ごしてもらえるように努力している。そのような毎日、家族が気軽に訪ねて来て10分ぐらい世間話をして「また来るねー」と帰っていったり、心地よい気候の時はふらっとドライブに出かけたり。健康管理面は日々管理されていて、体調が悪い時は迅速な対応がなされる。認知症ケアについても個別にどう対応すればよいか、笑顔での対応の中にも真剣に取り組んでいる職員の姿がある。また自己評価の中でも度々述べたが当事業所は診療所、介護老人保健施設と併設していて、これらは同一敷地内にある。このため住宅らしさという面で趣に欠ける所があり単独で事業をしているグループホームが優れていると思うが、医師が近くにいたり慰問が定期的に行われたりという便利さは無視できないものであり、家族等に聞くと「安心して預けられる」という言葉が必ず返ってくる。こうした長所も今後とも大事にしていきたい。